令和6年度　1学年「特別講座」授業報告

◎ 4月18日（木）

「オリエンテーション」

担当：本校教員

1．オリエンテーション　　◇特別講座では、どんなことをするか？

◇対人ヒューマンサービスの専門技術職に要求される能力、資質について

◇受講するにあたっての留意事項、特別講座の年間計画、内容について

2．46回生 学年主任より

≪講義の様子≫

≪生徒の意気込み≫

将来の夢である看護師に向けて、看護の分野だけではなく、医療、教育、福祉についても積極的に学んでいきたいです。ヒューマン基礎の授業では、異なる世代の方とコミュニケーションをとれる機会が多いため、その場を活用して幅広い世代の方とのコミュニケーション力を向上させていきたいと考えています。同じ夢を持つ仲間と共に支え合い、豊かな人間関係を築いていきたいです。このように、私は何事にも目標を持って取り組んでいきます。

私はこれから勉強に集中し、家庭での学習も欠かさず、総合ヒューマン類型という、自分自身で選んだ道を最後までやり遂げていきたいと考えています。また、外部講師の方の話をよく聞いて、日常に活用したいと思っています。看護や保育、そして勉強も、人と関わり柔軟に解決策を打ち立てる心理士になるには必要なので、頑張っていこうと思います。

私は将来の夢である看護師に向けて、講座等で学んだことを活かせるように、全力で行動、発表をしっかりと行っていきたいと思います。校外学習では、自分の長所である笑顔、明るさ、コミュニケーション能力を活かし、多くの人とコミュニケーションをとれるように頑張ります。自分と同じ夢を持っている仲間と一緒に頑張っていきたいと思います。夢に向けて、特別講座や校外学習を全力で頑張りたいです。

一年間の特別講座を通してそれぞれの分野の基礎知識や基本技術を身につけるために、毎時間の講座を真剣に受けようと思います。特別講座では外部の講師の方が講義してくださる機会がたくさんあるので、感謝を忘れないことと、教えてくださったことを忘れないように常にメモをとりたいです。大学への施設見学、体験学習は自分が実際に目で見て学べる貴重な機会なので、決して欠席、遅刻しないよう、主体的に取り組もうと思います。

一年生でどのようなことを学べるのかワクワクした気持ちと、不安な気持ちでいっぱいですが、ずっと憧れていた「思いやりがあり責任感の強い看護師」になるためにいろいろなことに率先して物事に取り組みたいと思います。高校生からこのような勉強ができることに感謝し、看護師になるための知識や技能、人間性やコミュニケーション能力を高められる３年間にしたいと思います。

◎　4月25日（木）

「保育の仕事について」

担当：甲子園短期大学　幼児教育保育学科

藤原　牧子先生

◇共働き世帯、育休後も働く女性が増えている。保育士、幼稚園教諭の需要がある。

◇乳幼児期、遊びを通して保護者と子の成長を共有し、目的を持って保育する。

◇保育の目的・・・①養護　②教育　③社会性を育てる

≪講義の様子≫

≪生徒の感想≫

私は今回の講義で、保育に関わる仕事の重要性を具体的に知ることができました。０歳から小学校入学までの期間で、ひとりでできることが増える中、すべて一からひとつひとつ教えるのではなく、答えを導くためにアドバイスをし、子どもの探求心や思考力を高める役割を保育者が担っていると学びました。

私は今回の講義を受ける前までは、保育者が子どもを楽しませる場所だと思っていました。しかし、楽しませるだけではなく、保育を通じて子どもがたくさんの経験を重ね、保育者が子どもの未来に向かって一緒に伴走するために、養護（愛をいっぱい）、教育（心を育てる）、社会性を育てる（折り合いをつける）重要性を学びました。

今回の授業で新しい知識を得られて、進路実現に近づくことができたと思います。共働き世帯が増えたことで保育者の需要があり、保育者は「大変」というイメージが定着していると知りました。仕事内容は主に３つあり、１つ目は、子どもたちに愛情を伝え、命を守る養護、２つ目は遊びなどから子どもの興味関心を育てる教育、３つ目は「折り合いをつける」ことを学ぶ社会性を育てることだと知りました。そして、成長を見守る過程で、課題を与えることが大切で、子どものためになると分かりました。例えば、食事でのお箸が使えるまでのスプーンやフォークの練習や、小動物の飼育や植物の栽培でのリアルを追求することが、保育者が与えている課題だと分かりました。「友だちと」「夢中になる」ということを保育者が大切にしているポイントだと知りました。声掛けや遊びから、子どもたちは「できた」を学び、「自分でできる」に変化し、その成長を支えることが保育者の仕事であり、一番のやりがいであると分かりました。

今回の講義を通して、保育者の役割や目的を改めて理解することができました。講義を聞くまでは、保育者は、ただ子どもの面倒を見るだけだと思っていました。ですが、それは違って、いつも目的をもって子どもと関わっていることが分かりました。中学生の時に、私はトライやるウィークで乳児保育所に行きました。私が担当したクラスは２，３歳のクラスでした。ある日、靴が履けない男の子を見つけ、手伝おうとした時がありました。すると、先生に止められました。当時は、なぜ止められたのか分かりませんでした。ですが、今日の講義を聞いて、日々、難しい課題を与えることで子どもはレベルが上がっていくので、なにもかも手伝うべきではないことを理解できました。小動物を飼育したり、植物を栽培する理由も知ることができました。保育園児の時は、さつまいもを掘って、みんなで食べたりするだけで、理由を気にしたことはありませんでした。ですが、目的を知ることで、とても興味が湧き、もっと知りたいと思うようになりました。

◎ 5月20日（月）

「園田学園女子大学　施設見学および体験学習」

担当：園田学園女子大学

大河内　敦史先生

◇大学学食ランチ体験　　◇看護分野・保育教育分野の講義

◇園田学園幼稚園見学　　◇大学・学科説明

≪講義の様子≫

≪生徒の感想≫

今回の講義を通して、看護職についてより知ることができました。私は保健師も看護職に入ることが驚きましたが、保健師の仕事内容を聞き、看護職だと自分の中で結びつけるようになりました。私は助産師を目指していて看護師の資格も必要なので、多くの話を聞けたので良かったです。今回は、肘にサポーター、手首に重りをつけ、高齢者の体を体験しながら講義を受けました。徐々にしんどくなり、体のだるさや肘の曲げにくさを感じました。私はこれまで高齢者の気持ちを深く考えたことがありませんでした。しかし、私達が親切心で行ったことが相手の高齢者を不快な気持ちにさせてしまうことがあるということで、今後は高齢者の立場になって考え、行動していきたいと思いました。他にもポリ手袋をして手先を不自由にしてみたり、特殊な眼鏡をかけて視界をぼやけさせてみたり、高齢者の歩き方で動いてみたりと様々な体験をさせていただき、やはり自分自身が実際になってみないと気づけないことがあるのだと思いました。今回の講義を受け、高齢者にはどのような配慮が必要なのかを具体的に知ることができ、看護職について非常に有益な話を聞くことができたので、進路を考える参考にしたいと思います。

私が今回の校外学習で学んだことは、子どもの学びの早さと、子どものことを考えた教え方です。幼稚園で子どもたちと遊んでいるときに、お母さんのプレゼントにリボンを作りたいと言われました。私は紐でリボンを作るところを見せたのですが、子どもの手で作るには少し難しく、とても苦戦していました。特に、最後の輪に紐を通すところは説明も難しく、どうしようかと悩んでいました。そこで、講師の先生が「同じ向きで一緒にやってあげて」とアドバイスをくださいました。私はその子の真正面で作っていたので、確かにこれだとやりにくいと気づき、私はその子の隣に座って、もう一度、作り方を一から教えました。するとその子が真剣に聞いてくれていたこともあり、一緒にリボンを完成させることができました。その後は何回も練習して、一人でできるようになっていました。この経験から、私は、子どもの学び方がとても早いことと、子どもの視点から考えて教える大切さを知ることができました。

今回の講義は、園田学園女子大学で看護職や高齢者について学びました。看護職には看護師、助産師、保健師があり、それぞれ患者の世話や治療の補助、保健指導をしていることが分かりました。看護職になるには高校卒業後、大学などに進み、看護師課程で学び、加えて保健師課程や助産師課程などについても学ぶこともできるため、将来の職業選択の幅が広がると思いました。人から信頼される看護職になるには、看護などの知識や技術だけではなく、相手の立場や状況に立つこと、思考力や洞察力、コミュニケーション能力を身につけることが大切だと分かりました。看護職は人のために一生懸命になれること、患者の人生に関わり、感謝される魅力的な仕事なのだと感じました。また、高齢者は年をとるにつれ感覚機能が変化していくことが分かりました。実際に体験することができ、たくさんのことに気づきました。

◎ 5月30日（木）

「教育の仕事について」

担当：神戸親和大学　教育学部

山田　希代子先生

◇教師の種類・仕事
◇教師になるためには・教員養成課程
◇教師の魅力
◇高校生のうちにしておくべきこと

≪講義の様子≫

≪生徒の感想≫

今回の講義では、教員の仕事や、教員になるまでの道のりを知ることができた。「教員」には、校長や教頭、勉強を教わる先生、さらには養護の先生なども含まれることが分かった。教師の仕事は、私たちが見えている授業だけではなく、授業の準備や朝・放課後の校務など、私たちが見えていないところの方が大変で、たくさんの仕事をしていると気づくことができた。ただ、その大変さの先には魅力ややりがいもたくさんあり、先生にも成長に繋がるきっかけがあったり、子どもの成長に大きく関わったり、授業や行事には楽しさがあることも分かった。「苦労は感動の種。苦労が大きいほどあとの感動が大きい」という言葉は、普段の生活にも言えることだと感じた。教師になるためには、教員免許の取得が必須であり、中・高は教科ごとの免許がある。免許を取ったあとも、採用試験をうけなければならなくて、採用試験には筆記や面接だけでなく、適正検査などもする必要があると分かった。高校生のうちからできることはたくさんあると気づいた。

今回の講義を通して私が一番響いた言葉は「苦労は感動の種、苦労が大きいほどあとの感動は大きい」です。教育の現場に限らず、私たち高校生にも身近に感じられる言葉でした。私はつらいことがあれば、すぐに挫折して逃げてしまう癖があります。「こうしておけばよかった」と後悔したこともあります。そのため、この言葉をモットーに勉学や部活動に励みたいと考えています。私は教育という仕事にも少し興味が湧きました。教師の仕事は休みが少なかったり、確かにデメリットは大きいです。が、「生徒は未来をつくる存在」と考えると、そのような子どもとともに成長できる教師はとてもやりがいのある仕事だと気づきました。もちろん簡単な職業ではなく、体力が必要なことは理解しています。ですが、子どものために汗をかける教師は私の尊敬する人でもあります。私が将来、教師という職業に就かなかったとしても、誰かのために汗をかけるような人になりたいです。そのため、たくさんの人と関わることを頑張りたいです。

私は部活動の時、先生に指導してもらえることに関して特に気にすることもなく、部活動に集中して取り組んでいました。生徒が過ごしやすい環境をつくってくださった先生方にとても感謝しています。今回の特別講座で、生徒のために先生の貴重な時間を割いてもらっていたということを初めて知りました。教師の魅力とは、授業や学校行事を一緒に取り組むことで子どもの成長に関わることができるとともに、苦労や感動を受けることで人に教えるやりがいを感じることができると考えました。

今回の講義を受けて、教師になるためにはたくさんの過程があることが分かりました。中高それぞれで種類が違う教員免許を取得しなければいけなくて、大学の授業で取得できることが分かりました。また、教師という職業にもたくさんの種類があり、それは法律で決められているということを初めて知ることができました。私はトライやるウィークで保育士の仕事を体験させていただきましたが、その仕事は一部で他にもたくさんの仕事があることを知りました。

◎　6月20日（木）

「鍼灸・柔道整復　分野ガイダンス」

担当：森ノ宮医療学園専門学校

岩澤　周平先生

◇医療者の魅力とは？　医療系国家資格を取得できる。勉強、仕事も大変。やりがいのある仕事。

◇鍼灸師とは？　◇柔道整復師とは？　◇高校生のうちにやっておいてほしいこと

≪講義の様子≫

≪生徒の感想≫

講義を受けて、初めて鍼灸師と柔道整復師について知ることができました。医療職には人の命を預かる責任や、様々な人と関わる機会があり、やりがいのある一方で大変な仕事が多いことを改めて学びました。鍼灸師の仕事は鍼を体のツボに刺して治療するもので、肩や腰の痛みだけではなく不眠や喘息などにも効果があると知り、とても関心をもちました。鍼を体に数センチさすと聞いて驚きましたが、無痛、もしくは気持ちの良い痛みで、身体への負担が少なく高齢者や子どもなど免疫の弱い人の不調を改善できることに魅力を感じました。柔道整復師は、怪我の発生、評価から治療、リハビリ、完治まで患者さんを支えることができることに魅力を感じました。様々な医療職を学ぶことは、将来の自分のために必要だと改めて思いました。

今回の講義で学んだことは３つあります。１つ目は鍼灸師の資格についてです。鍼とお灸の二つの資格で、専門学校や大学で勉強をして、国家試験に合格してやっとなれることです。２つ目は、鍼灸師の仕事についてです。経穴という体に３６１カ所あるものを刺激して、体のコンディションを整えたり、内臓や五感の様々なことを治せます。そして鍼灸師はスポーツ選手を薬を使わずに治せる人達です。３つ目は柔道整復師についてです。柔道整復師は最初の発生から完治まで、最後まで一人でできる職業で、投薬や手術といった体への負荷が大きい施術ではなく、体への負荷が少ないもので施術します。さらにこの２つの職業は独立開業権を持ち、スポーツ選手につくなど、実力をつければ大きな仕事ができる職業です。

今回の講義では、鍼灸師と柔道整復師について学びました。鍼灸師は、鍼という針を体にさし、ツボを押したり、お灸をたいたりして体の不調を整えます。体の筋に加え、目や耳、内臓、精神的症状までケアすることができると知り、とても驚きました。私が特に魅力を感じたことは２つあります。１つ目は体の負担の少なさです。薬を使った治療ではないため、子どもからお年寄りまで、数多くの人が治療を受けられるところです。２つ目は他の治療と同時に行うことができるというところです。薬を飲みながらでもリハビリを受けながらでも副作用の心配なく治療を受けられるというところに魅力を感じました。柔道整復師については、骨折や脱臼などの怪我の治療をすると学びました。私が一番この仕事に魅力を感じたところは、スポーツの現場との深い関わりです。スポーツトレーナーのほとんどは、この資格を持っていると知りました。今回の講義は、とても興味をひかれる内容でおもしろかったです。

今回の講義で、医療系の仕事に就くことのメリットを学びました。医療系の仕事に就くには「国家資格」が必要になります。病人を救うことができ、人の健康に貢献でき、そして生命に関わる責任のある仕事だと分かりました。鍼灸師は髪の毛と同じくらいの細さの鍼と、植物のもぐさを火につけたお灸を使って治療します。鍼は、いきなり体に刺激を与えるのではなく、浅く刺して準備をし、２㎝ぐらい体内に入れて身体の負担を少なくすることが分かりました。柔道整復師は、捻挫や打撲、骨折をレントゲンや薬を使わず治療し、怪我の発生から完治まで細かくサポートし、身体に負担をかけないようにしていることが分かりました。

◎ 7月8日(月)

「甲子園短期大学　大学見学・授業体験」

担当:甲子園短期大学

森井　裕史先生　他

◇「福祉の仕事」・福祉って何？　・福祉に関する資格について　・介護福祉士について
◇「介護体験」　①「立ち上がり・入浴」 ②「高齢者疑似体験」

≪講義・実習の様子≫

≪生徒の感想≫

今回は福祉について学ぶことができました。福祉とは「すべての市民に最低限の幸福と社会的援助を提供する」という理念を表す言葉であり、福祉の対象者は障がい者の方や高齢者の方だけではなく「自分で安心、安全、快適な生活を送ることができない人」という幅広い世代であることが分かりました。介護の「介」は、仲立ちや助けるという意味で、「護」にはまもる、助けるという意味があることが分かりました。「高齢者になってみる」体験学習では、今の自分の体ではなく年齢が上がっていくごとに体の自由がきかなくなってしまうことが分かりました。見えにくくなったり聞こえずらくなってしまい、私たちが今、している“普通の生活”ができなくなってしまうことに気づくことができました。

私は福祉と聞いて頭に浮かんだ言葉は介護でした。しかし、福祉に関わるたくさんの資格があることに驚きました。高齢者疑似体験では、おもりが数個入ったベストを着て、手首・足首におもりをつけ、さらに紐を使って前かがみの状態になりました。私の年齢ではまだ筋力もありますが、筋力が落ちた場合を考えると、少し歩いただけでもしんどくなりそうだと思いました。次に、立ち上がりや入浴の際の介護では、立つ時の原則という重要な点を知り、どのようにサポートすればよいのか理由を説明できるようになりました。半身麻痺でベッドから車いすに移乗する時は、健側の方に車いすを置く、入浴の時は椅子や台があると便利で、湯船から出る時は立つ時の原則を意識するということを学びました。新しい学びがたくさんありました。

今回の講義で学んだことは２つあります。１つ目は、福祉とはみんなが幸せに暮らすための制度や行動など、ということです。日本の福祉では、貧しい人を救う救貧制度から始まり、生活の安定を目指す社会保障制度、さまざまな人を助けるための児童福祉・障害福祉・高齢福祉など多くの福祉が行われていると知りました。そのことを知り私は、福祉はその時代、その時の問題に合わせた制度が設けられているのだろうと思いました。また、福祉の中で大切なことは「社会の一員として福祉の気持ちを持つこと」「福祉に関わる仕事をする上で楽しさややりがいを持つこと」だと分かりました。２つ目は、高齢者の介護をする上での大切なことやコツを学びました。例えば、立ち上がりの補助をする時は、相手の方に前かがみになってもらったり、足を少し椅子に近づけてもらうなどして体重を使って立ってもらうと知りました。介助する上で最も重要なことは、一方的な介助ではなく、相手の意思を尊重した介護をすることだと分かりました。

今回は甲子園短期大学に行き、たくさんの福祉の仕事について知ることができました。福祉の対象者は、高齢者、障害のある人、幼児・子ども、生活困窮があり自分自身で安心・安全・快適な生活を送れない人だと知りました。介護は、日常生活に支障がある人に対して食事や排泄、入浴等の身体的な援助を行う他、日常生活全般の支援を行うことです。高齢者のからだの変化、こころの変化を学んだ上で介護体験をしました。介護体験では、補助すればできることは自分でするなど、全部を介護者がしないということを学びました。障害があってもなくても、高齢者でも若者でも生き生きと楽しく暮らしていける社会が必要だと思いました。

◎ 8月29日（木）

「森ノ宮医療大学　施設見学」

担当：森ノ宮医療大学

亀井　朋先生　他

◇看護医療系分野別ガイダンス　◇施設見学（キャンパスツアー）　◇森ノ宮医療大学 紹介

◇在学生トークライブ（伊丹西高卒業生2名による）

≪講義の様子≫

≪生徒の感想≫

今日は森ノ宮医療大学の施設見学をさせていただいて、医療者の魅力や医療に関わるたくさんの仕事を教えていただきました。まず、医療者の魅力として、国家資格を取得することで就くことができる仕事であるため、就職に困らず生涯安定して働くことが挙げられます。しかし、学校での勉強はもちろん、医療者になってからも人間関係や責任の重さでストレスを抱える人も少なくありません。そのような医療者にとって大切なことは、確かな知識と技術を持っておくこととコミュニケーション能力です。最新の知識と技術を身につけておくことで救える命が増えるかもしれません。また、患者さんや家族の不安を少しでも和らげることができるような言葉をかけるコミュニケーション能力が必要となってきます。私の知らなかった臨床検査技師や臨床工学技士などのお話も聞かせてもらったので、自分の将来について考えたいです。

医療職には、医師や看護師だけでなく、臨床検査技師、診療放射線技師などたくさんあると分かりました。医療者として大切なことはコミュニケーション能力や人間力であり、相手の立場に立って物事を考えることが重要です。そのため、私はこれからの学校生活で相手の気持ちや考えを尊重することを心がけていきたいです。また、リハビリとは元の生活に戻るために体を回復させるための訓練で、リハビリを行う医療職は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の３つがあることが分かりました。理学療法士は基本的動作能力の回復を行い、作業療法士は応用的動作能力の回復を行うなどの違いを知ることができました。また、患者の手術をする際、医師や看護師以外にも臨床工学技士という人工呼吸器や血液浄化装置、人工心肺装置などを扱う仕事をする人がいることを知りました。実際に用いられる複雑な機器や、看護やリハビリで使用する器具を現場で見ることができ、有意義な施設見学ができました。

私は今回の講義で知らなかった仕事や、名前は知っているけど内容は知らなかった医療系の職業について学ぶことができました。また、医療者になるには勉強や資格取得が大変で難しいけど、それ以上にやりがいのある仕事だと学ぶことができました。西高の卒業生に質問をする時に、先輩の高校時代の評定平均値等を知り、まだ大学を決めていない私でも勉強をしておく必要性と、早くからの受験勉強の必要性を感じました。

今回の施設見学を通して、大学の設備や学部ごとの実習室などを実際に見て知ることができました。私は将来看護師になりたいのですが、その他にも医療職がたくさんあり、リハビリに関する仕事も患者さんと深く関わる仕事だと知りました。患者さんの治療方針を自分で創意工夫できることや、患者さんが健康な体になっていくのを間近で見ることができる魅力的な仕事だと感じました。リハビリの領域に加えて、臨床検査技師や臨床工学技士、診療放射線技師など幅広い領域、分野の仕事内容を学び、チームでの連携やコミュニケーションをとれるよう、今から勉強していきたいと思いました。

◎ 9月12日(木) 26日(木)

「校外学習事後学習(発表)」

担当:本校教員

◇内　　容　　大学の施設見学・体験授業等を通して、学んだこと、感じたことを発表する。

(園田学園女子大学または甲子園短期大学または森ノ宮医療大学)

◇評価項目　　①内容 ②構成・わかりやすさ ③声の大きさ、抑揚 ④姿勢・態度 ⑤分量と時間(1人2分)

≪発表の様子≫

≪生徒の感想≫

練習が足りず、上手く発表できませんでした。唯一できたところは、声の大きさです。目線は周りを見ながらはできませんでしたが、しっかり前を向けたのは良かったと思います。改善点としては、発表する内容をしっかりまとめること、練習を何度もすること、周りを見て語りかけるような話し方を心掛けることです。私は緊張しやすいので、大丈夫だと自分で思えるくらい練習しようと思いました。

他の人の発表を聞いて感じたことは、落ち着いて発表することの大切さです。良い内容の発表であっても、落ち着いていなければ話があまり入ってこなくなってしまいます。印象に残った発表は、聞き手に語りかけるような話し方をしている人や、具体的な内容を述べている人の発表です。聞き手の気を引き、情景を浮かびやすくする効果があると思いました。そのため、次の発表では、聞き手が興味を持つような話し方を意識しようと思います。

今回の発表を聞いて、相手に伝えるには分かりやすい言葉を使うことで、発表者が何を大切に思っているかを理解できると思いました。発表はただスピーチをするだけでなく、問い掛けることで相手を引き付け、目線を周りに向けることで相手に伝わりやすいと思います。今後は気をつけたいと思いました。

今回の発表で反省点がたくさんありました。１つ目は、キーワードを元に内容をしっかり伝えることができなかったことです。２つ目は、時間内に収めることができなかったことです。他の人の発表を聞いて、工夫することが大切だと感じました。特に目線の配り方や、聞き手に分かるように飽きさせない話し方、問い掛けをすることが必要だと感じました。

今回初めての発表で、とても緊張しました。もっと練習していれば、話したいことが次々と出てきたり、声量・スピード・目線など、他にも良くできるポイントがあったと思います。次回、少しでも改善できるように気をつけたいです。

看護はやりがいのある仕事ですが、その分、大変なことやいつでも患者さんの命と繋がっていることが分かりました。保育は子ども達を中心に接することや寄り添うことが大切だと分かりました。私は実際に大学へ行っていませんが、発表を聞いてとても勉強になりました。皆さんが原稿を見ずに発表していたにもかかわらず、スラスラと言えていたことがすごいと思いました。

本時の発表は、今まで知らなかったことをたくさん知ることができました。医療・看護系の大学の特色や魅力が伝わってきました。また、皆さんの発表からは、とても意欲的に学んだことが伝わってきて、将来のために努力しているのだと感心し、自分もそのような姿勢で授業に取り組みたいと思いました。

◎　10月3日（木）

「歯科衛生士のリアル～予防医療の最前線～」

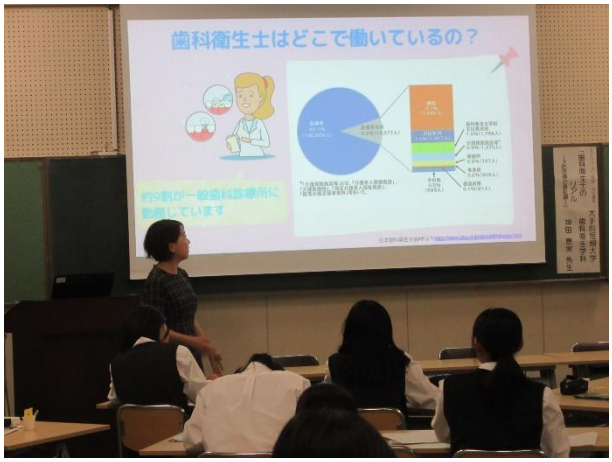
担当：大手前短期大学　歯科衛生学科

神田　恵美　先生

◇歯科衛生士の3大業務　歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導　◇RDテスト

◇求人倍率・働く場所　◇歯科衛生士１日の流れ　◇大学での履修科目・国家試験

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

歯科衛生士は患者さんの生涯を通して関わる仕事ということを学びました。働く場所、仕事内容、履修科目にとても魅力を感じました。働く場所は様々で、約９割が一般歯科診療所で約６万８千軒もあり、求人倍率が高く、また、約１割が総合病院など、幅広い環境で活躍されています。歯科衛生士の仕事は、予防処置、診療補助、保健指導などがあります。驚いたことは、歯科衛生士一人一人に担当患者がいるということです。患者さんに長い時間をかけて治療、予防を行っていくことは歯科衛生士ならではだと思います。歯科衛生士の一日はとても忙しく大変なこともありますが、やりがいを感じられることが多いと思いました。大学での履修科目は、私は歯に関することだけを勉強すると思っていましたが、がん患者さんや高齢者の方への治療も行うことがあるため、ヒトの全身について学ぶことを初めて知りました。私も歯医者が苦手であまり行きたくないと思っていたのですが、今日の講座を聞いて、悪くなる前に行こうと思いました。

歯科衛生士について多くの症例と共に仕事内容を説明してくださった中で、強く印象に残っていることが２つあります。１つ目は心のケアも行うことです。歯の治療が必要になった経緯を患者さんから聞き、心のケアまで行うことで診察が途切れるのを防ぐことに繋がるのだと知りました。２つ目は病気を患っている妊婦さんや新生児の口腔ケアもすることです。そのため、歯科衛生士になるには全身を学ぶ必要があり、患者さんの状態によってケアの方法が違うことも知りました。歯科衛生士は医療職の中で唯一、予防医療に分類される他の医療職との違いに気づきました。今回の講義で、たくさんの驚きや発見、気づきがあり、考えを深めることもできました。とても楽しく様々な角度から物事を考える大切さを改めて感じた講義でした。

私は幼い頃から歯科医院に通っていましたが、歯科衛生士の仕事を今回知ることができました。「治療し終わったらもう終わり」ではなく、治ってからも関わることができる点が素敵で、看護師や医師ではあまり味わえない唯一無二のことだと思いました。歯科衛生士は、患者さんもある程度、健康なまま何十年も関わり続けることができる仕事です。また、歯科衛生士は歯のことだけでなく体のことについて学んだり、幼児との接し方、機械の操作方法など様々なことを学ぶ必要があるため、資格を取るのも大変だと知りました。

歯科衛生士は病院だけでなく、訪問医療や定期健診などの現場で担当患者をもつということに驚きました。患者さんに寄り添う場面が多いと聞いた際、私が歯科衛生士に長期でお世話になっていたことを思い出しました。学校のことや日常生活のことをたくさん聞いてくださり、心に余裕ができたことを今でも覚えています。神田先生の「保護者への支援が必要だった事例」では、保護者を責めるのではなく病院に来ていただいた勇気を褒めるという言葉がとても心に残りました。この言葉は歯科の現場だけでなく、医療全体で必要とされている声掛けだと思いました。

◎　10月23日（水）

「大手前大学　国際看護学部施設見学及び体験学習」

担当：大手前大学　国際看護学部

藤井 ひろみ先生，土谷 僚太郎先生

◇国際看護学部紹介、看護師について（藤井先生）

◇体験授業「Let’s Think 成人看護」、脳梗塞についての動画、グループワーク（土谷先生）

◇施設見学（実習室、図書館、食堂など）

≪講義の様子≫

≪生徒の感想≫

今回の校外学習で学んだことは２つあります。１つ目は、看護とは知識が頭に入っていても、人に寄り添うことで初めて人の役に立つということです。さらに今、人口は減り続け高齢者社会になっています。看護はこれから必要になると考えられます。そして大手前大学の国際看護学部では、英語に力を入れることによって、外国の方など幅広い方々を受け入れられるようにしています。２つ目に学んだことは、大学のカリキュラムです。大手前大学は英語に力を入れているため、看護学や実習、英語に同じように時間をとっています。看護師は医師や薬剤師と同じくらい勉強しなければいけません。このことから看護師は他の医療職と協力しながら勉強し、力をつけて多くの人を助けられるよう努力していることを知りました。

今回の講義で体験授業が一番印象に残りました。私は成人看護とは 20 歳以上の人への看護と思っていましたが、看護学的には成人とは心身ともに成長・成熟した人のことをいうことを初めて知りました。脳梗塞がどのような病気か知りませんでしたが、動画を見て、先生に教えていただき、脳梗塞がどれだけしんどく苦しいのかが分かりました。動画を見ていると心が苦しくなり、今すぐにでも手を差し伸べたいと思いました。グループワークで、患者さんがどのようにしたらご飯が食べやすくなるかを話し合った際、全てサポートしてもらうのではなく患者さんのできることを増やしていこうとする友達の考えがとてもすごいと思いました。私も今後はその人のできることを探し、できないことはサポートするような考え方をしたいと思いました。成人看護は身体的側面、心理的側面、社会的側面を統合的に見ていくこと、プロセスとして見ること、患者さんの状態、病期、回復過程を予測しながら接していくことが大切だと、この講義で分かりました。

看護師は知識があるだけではなく、心も気に掛ける必要があると分かった。これは他の職業でも大切なので日常から養っていくべき力だと感じた。脳梗塞について動画を通して症状を知ることができた。患者さんに対して、自分ができることは何かを考えるときに大切なことは、周りの人がただ手伝うのではなく、患者さんが自分で少しでもできる方法を考えることが大切だと思った。グループワークをしたときに、患者さん（４０代女性、母親）の気持ちを考えたときに、他の班は、家族や職場に迷惑をかけるという意見が多くて、それも納得したが、私は子どもに自分で食事がとれなくて看護師にしてもらっている姿を見せたくないという母のプライドを考えた。娘の立場で考えても、私の母が自分で食事などの日常生活を当たり前に送れない姿は深刻さを増してしまう。だからこそ、子どもたちに対する配慮でもあり、「私は頑張れる！」という意思表示だと思った。これは心理的側面なので、他に身体的側面と社会的側面を統合的に見ていくことを大切にしようと思った。それを考えていくことが看護師の仕事のポイントだと分かった。

◎　10月31日（木）

「校外学習事後学習（発表）」

担当：本校教員

◇内　　容　　大手前大学の施設見学・体験授業を通して、学んだこと、感じたことを発表する。（1人2分）

◇評価項目　　①内容　②構成・わかりやすさ　③声の大きさ、抑揚　④姿勢・態度　⑤分量と時間

≪発表の様子≫

≪生徒の感想≫

直前までは頭に入っていたのに、人前に立つと緊張して話す内容がとんでしまい、上手く話せなかった。内容を上手くまとめることができず焦ってしまったので、たくさん練習して自信をつけて、落ち着いて話すことを目標に頑張りたい。初めて大勢の前で自分の考えたことを、原稿を見ずに伝えるということをしてみて、人に伝えることの大変さを知ることができた。私は普段から自分の思っていることや意見を伝えるのが苦手で、今回のような発表になると、考えていたことが思い出せなくなって、上手く伝えられなくなってしまう。そのため、これからは定期的に自分の意見を伝え、発表が上手くなるように努力していきたい。そしてそこから自分の短所であるコミュニケーション力不足を向上させていきたいと思う。そして徐々に看護師に必要な条件で、自分に足りない部分を補っていきたい。

皆の発表を聞いて、次に活かしたいところが２つあります。１つ目は速さ加減です。私は発表内容を忘れそうになり、早口になってしまいました。２つ目は声の大きさです。私は大きな声で聞こえるように意識しました。他の人も後ろの席でも聞こえました。私は２つのことを意識して、次の発表に臨みたいです。

他の人達の発表を聞くことで、自分の考えと共感し合える部分や、自分では気づけなかった部分など、より深く学ぶことができました。実際に行って学んだことだけでなく、大学の魅力や設備、体験して感じたことや気づいたことなど、様々な視点から自分の考えを発表していてとても分かりやすかったです。文章構成を工夫して、問い掛けや自分の感想を含めているところが良かったと思いました。

今回の発表では、自分なりに準備した内容を伝えることができたと感じました。しかし、緊張して内容が所々飛んでしまい、止まってしまう場面がありました。もっと練習を重ね、内容をしっかり伝えられるようにしたいと思いました。また、発表の際、一点だけを見つめて話してしまいました。次回は聞いてくれる人達に視線を向けながら話せるように練習を積み重ねたいです。内容をうまくまとめられた反面、多くの課題が見つかったと感じています。他者の発表の良かったところを吸収し、今回できなかったところを改善して、次の発表につなげたいです。

他の人の発表を聞いて、勉強になる点が多くありました。まず、話の構成が非常に分かりやすく、整理されていたので、内容が自然と頭に入ってきました。さらに、話し方に抑揚があり、言葉の選び方や声のトーンが安定していたので、引き込まれるように感じました。特に印象的だったのは、発表の中で私たちに問い掛けをしながら進めていたことです。問い掛けのおかげで、積極的に考えながら聞くことができ、自分自身の理解に繋がりました。今回の発表で自身になかった工夫を学ぶことができたので、次回の発表に活かしていきたいと思います。

◎　11月7日（木）

「未来を支える食のプロフェッショナル：管理栄養士」

担当：大手前大学　健康栄養学部

李　明鎭先生

◇医食同源、You are what you eat.　　◇管理栄養士免許取得への道のり

◇管理栄養士の仕事　①病院　②栄養教諭　③給食会社、食品会社　④薬局　⑤スポーツ栄養士

≪講義の様子≫

≪生徒の感想≫

今回の講義では、管理栄養士について学びました。医食同源という中国から伝わった健康観をもとに管理栄養士の存在が大きいことが分かりました。管理栄養士の仕事は、健康管理や病気予防のための様々は指導や教育啓発があり、例えば、きちんとした食事を取ることの重要性や「おいしい」と思える食事の提供をしていることが分かりました。その為、管理栄養士は患者さんの栄養管理だけでなく、生活に合ったケアを行い、心に寄り添っているのだと感じました。他にも給食のメニューを考え、子ども達に栄養の大切さを教えたり、健康に良いメニューを開発したり、ドラッグストアでサプリメントの説明や栄養相談を行ったりしていることが分かりました。また、管理栄養士の仕事の中で、スポーツ選手に栄養のサポートをするスポーツ栄養士になることは難しいですが、とても人気の仕事だと分かりました。次に、栄養士と管理栄養士の違いについて学びました。栄養士は主に健常者への栄養指導を行っており、都道府県知事の免許を受けた国家資格で、管理栄養士は健常者以外にも患者や高齢者を対象としており、厚生労働大臣の免許を受けた国家資格で、管理栄養士国家試験合格で免許を取得できると分かりました。

今回の講義で学んだことは、食の大切さと管理栄養士と栄養士の違いです。健康を保つためには食事が重要です。適切な食生活を送ることで病気の予防や治療に繋がります。栄養をバランスよく摂ることで身体的、精神的に与える影響が強くなることも知られています。現在、健康長寿社会の実現に向け、栄養管理の需要が増加しています。世間では食の重要性について浸透しつつありますが、食の専門家についてはあまり知られていないことも知りました。管理栄養士は国から免許を受ける為、活躍の場が広がります。いろいろな仕事がある中で、興味を持ったのは栄養指導です。患者さんの栄養状態を評価し、足りていないものを見つけ出し提供するなど、常に勉強し、適切な対応が必要です。また、NST という医療従事者が１つのチームとなって患者さんとご家族を支える仕事があります。一人一人に合った献立を作り、提供、説明、経過など栄養面に密接に関わるところが魅力です。管理栄養士に必要な、基本となる国語、苦手分野である生物、化学の勉強を積み重ねて目指してみようと思うことができました。

今回の講義が管理栄養士ということで、母が栄養士の資格を持っていることもあり、前々から楽しみにしていました。講義では、改めて栄養士との違いや、この職業の重要性や大変さ、魅力を学習することができました。印象に残ったことは「医食同源」です。「医療」と「食」は根本で繋がっているという意味で、前回、大手前大学の国際看護学部の特別講座の中でも、40 代の女性が手術など病院で治療をすることも大切ですが、その前に自分で食事をし、エネルギーを蓄えておくことが大切だと思いました。人間は年をとり、病院でお世話になります。その時に管理栄養士さんにもお世話になります。管理栄養士はとても偉大な存在だと思いました。

◎　11月21日（木）

「知って！ボラセン！　～ボランティア活動のススメ～」

担当：伊丹市社会福祉協議会

新開 実莉先生

◇ボランティア・市民活動センター（ボラセン）の主な働き

◇災害ボランティアセンターとは、能登半島地震、被災地の様子、高校生によるボランティア活動

◇伊丹西高ボランティア部の活動について（ボランティア部より）

≪講義の様子≫

≪生徒の感想≫

今回、ボランティア活動についての講義を聞きました。この講義を受けるまでは、ボランティア活動は大人になってからではないと活動できないと思っていました。しかし、高校生にもできるボランティア活動や、様々な種類の活動があり、とても奥の深い活動だと感じました。どのようなボランティア活動をしたいですかと聞かれたとき、私は「趣味や特技を活かしたボランティア」「専門技術、経験を活かしたボランティア」をしてみたいと思いました。私はフォークソング部に所属しており、音楽の力でボランティアをしてみたいと思ったからです。また、将来、手話通訳士になりたいため、その夢への一歩として、手話を使って会話をしたいと思ったからです。また、講義を聞いて驚いたことは、こども食堂がボランティア活動で行われていたことです。ボランティア活動は人の優しさで活動していると思うと、非常に心が温かくなりました。私は災害時に現地に行ってボランティア活動をするというのは難しいですが、募金などできることをしたいです。

今回はボランティアについての講義を聞きました。まず、ボランティアセンターは、ボランティアをしたい人と必要としている人をつなげる役割をしていることが分かりました。これをボランティアコーディネートといいます。また、ボランティアの活動は様々な内容があり、対象者も違うそうです。人を助けるようなボランティアもあれば、福祉の学習をするボランティアもあり、興味を持ちました。高校生でもできるボランティアはたくさんあるので、直接的でも間接的でも自分の行動で少しでも人の役に立つことをしていきたいと思いました。

ボランティア活動ではそれぞれ対象者が違うことを学びました。私は高齢者サロンに参加したことがあります。ですが、他にも様々なボランティア活動があり、伊丹市内のこども食堂は１８ カ所あることが分かりました。また趣味を活かしたボランティア活動もあることを知り、自分にもできるものを調べたいと思います。ボランティアセンターの担当者は、知識や経験のある人が担当することで地域への愛情を育むということを学びました。被災地のボランティア活動では、ギブスを洗濯する、地図を作るなど、高校生にもできる間接的なボランティア活動があることが分かりました。ボランティア活動は「自分のできることを、できるときに、できるところで」始められる身近な活動だということを学ぶことができました。

私はボランティアセンターという言葉を初めて聞きました。施設や地域でのボランティアに関心を持ちました。講師の方から、学校、保育園、病院で様々な活動をしており、高齢者施設で太鼓の演奏で盛り上げていたと聞きました。私も高齢者や子供たちを元気づけるために、このような活動をしてみたいと思いました。子ども食堂や近所同士で助け合える関係をつくる高齢者サロンなど、ボランティア活動に興味を持ちました。

◎　12月11日（水）

「関西学院短期大学　施設見学及び模擬講義」

担当：関西学院短期大学　保育科

小山　顕先生，堀井　康利先生，豊　智子先生

◇大学説明　　◇学内見学　おもちゃとえほんのへや、図書館、リプラ、ミュージックラボ、聖和の森など

◇「見つけよう・見つけ合おう「わたしの良さ」～保育者を目指すうえでの第一歩～」（小山　顕　先生）

≪講義の様子≫

≪生徒の感想≫

今回の講義では、保育者を目指す上で大切なことについて学びました。それは自分の良さを見つけることです。自分の良さに気づくことで、その良さをきっかけに周りの人々との関係を築くことができます。

多くの場合、保育者は主に子どもに焦点を合わせてしまいがちですが、今回は自分自身に焦点を当てて考えました。自分の“良さ”や“強み”を確認する時間があり、私は自分にはこんな“良さ”や“強み”があるのだと気づくことができました。自分自身の強みを上手に使うため、自分の良さについて理解を深め、自分の良さをどんどん活かしていくことが大切だということが分かりました。自分の良さを活かした保育は、きちんと子どもたちと接することができるので、楽しいのではないかと思いました。保育者という仕事は子どもを育てていく上で、必要不可欠なものなので、これから先もなくなることなく続いていく仕事だということ、本当のことを話せる友達がいるということは、この先、人と関わっていく中でたくさんのことを学ぶことができることを教えていただきました。私の将来の夢は、保育者になることなので、今回の講義は保育者を目指す上でとても大切であり、今後の生活にも活かしていきたいと思いました。

今回は保育に関わる知識や職業を詳しく知ることができました。私は看護師を目指していますが、小さな子どもと関わる機会もあるので参考になりました。子どもと関わる「保育者」は自分自身の良さや強みを理解していること、また人と関わることの大切さを経験することが大切だと改めて思いました。そして子どもは大人の様子に敏感で、大人の感情によって子どもの感情も変化することを知りました。笑顔で接することが子どもの心の健康にも繋がっていると思います。私は将来、看護師として子どもと関わる時は笑顔で優しく接したいです。子どもは自分の伝えたいことを上手く伝えられず、泣いてしまうこともありますが、そういう時に自分が焦ってしまうと子どもは心配になると思うので、まずは落ち着いて笑顔で話しかけること、そして子どものペースに合わせたいです。

保育者は自分自身の良さを知ることが大切だということに驚きました。保育者は子どもに関わる仕事なので、子どもたちのことを理解することが大切だと思っていました。しかし、子どもたちを楽しませたりするには、まず自分自身への理解を深め、強みを活かすことが必要だと分かりましたが、それはとても難しいことだと思いました。私自身、自分の強みは何か、良さは何かを理解できていないからです。しかし、講義を聞き、自分の強さや良さを知らないと自分の活かし方が分からないということを改めて感じたので、これを機に自分と向き合ってみようと思うことができました。自分の良さが分かればそれを存分に保育で活かすことができ、働くことがとても楽しくなると先生もおっしゃっていました。働くことを楽しいと思えることはとても素敵なことで、私もそのように思えるよう今から全力で頑張っていこうと思いました。保育者は子どもの成長を助けるだけでなく、自分も成長できるとても魅力溢れる仕事だと思いました。

◎　1月16日（木）

「伊丹市子育て支援センターの役割と親子の遊び」

担当：伊丹市子育て支援センター

道添先生，大田先生

◇「子育て支援センター」ってどんなところ？　◇事業紹介（わくわく）と子育て支援拠点、ととりば

◇親子遊び（体操）を体験　◇仲間集めゲーム　◇絵本の読み聞かせ

≪講義の様子≫

≪生徒の感想≫

今回の講座で子育て支援センターの大切さを学ぶことができました。講座の中でおっしゃっていたように、子育て支援センターには様々な取り組みがありますが、中でも「ととりば」というお父さんの育児参加支援というのがあることを知りました。お母さんに子育てを任せっぱなしにするのではなく、お父さんにも知ってもらうため「ととりば」は大切な場所だと思いました。また、実際に仲間集めゲームをしてみて、子どもたちに動物の名前を知ってもらい、自分達の力で仲間を集めるというゲームは非常に大切だと感じました。このゲームを小さい頃にすることで、大きくなっても、誰とでもコミュニケーションを取り合う能力が身につくと思うので意味のあるゲームだと思いました。この講座で、コミュニケーションの大切さやお父さんにも育児について知ってもらう「ととりば」は大切だと学びました。

今回の講義と体験で、社会の大きな変化が子どもたちにも大きな影響を与え、さみしさや孤独感を感じさせてしまっていることが分かった。私が将来、保育士になることができたら、さみしさを感じてしまう子がいないような、周りがしっかり見えるような先生を目指そうと思った。他にも子どもが楽しむためには自分が全力で楽しむことが大切だと気づいたから、恥ずかしがらず子どもたちのお手本のような存在を目指したい。保育士や幼稚園教諭という立場でなくても、子どもと関わる機会はあるだろうし、今後、自分が母親になれば幸せだけではなく苦労や悩みもできると思う。そんなときのためにも今回の講義を覚えていたら制度や講義など助かることが多くあると感じた。体操やゲームの体験では、緊張や恥ずかしさが全て見破られていて驚いた。しかし、この感情は私たちだけではなく、子育て支援センターへ通うお母さんも感じていることだと思った。子どもだけでなく、お母さんの緊張をほぐしたり、恥ずかしさを消したり、不安を拭ったり、講師の方は人との付き合い方がとても上手だと感心した。雰囲気づくりなど、今の自分にもできることがあるのではないかと感じた。

今回の講座で学んだことは２つあります。１つ目は話す言葉、コミュニケーションについてです。体験した親子ゲームで、私はなぜ動物の声や動きでコミュニケーションを取るのか不思議でした。しかし、未就学児にも分かりやすく親同士、子ども同士、また親子がコミュニケーションを取りやすい方法だからです。そして動物の声は分かりやすく、喃語の次に話しやすいため、親子の交流がしやすいです。さらに身近な動物や動物園にいる動物であれば、動きも分かりやすいため、体で表現できます。２つ目は絵本の読み聞かせなどの技術についてです。優しい声のトーンで話しながら絵本の雰囲気に合わせて声色を変えることで、分かりやすく伝えることを知りました。また、絵本の読み聞かせをしていただいている間、手や声、本の動かし方を見ていました。絵本の中の動作を表すことでより分かりやすくしていると思いました。絵本の難しい言葉を子どもにも分かりやすく伝えるためのいろいろな努力をしているのだと思いました。

◎　1月30日（木）

「1年のまとめと来年度に向けて」

担　当：本校教員

◇「1年のまとめ」アンケート　　◇ヒューマン主任、学年主任のお話

≪1年間の反省・感想・印象に残ったこと≫

私がこの1年で反省すべきところは、メモの取り方、文章の作り方、発表の仕方の3つです。先生の話していることを真剣に聞いていると、メモを取るのを忘れてしまいます。今後はしっかりメモを取ろうと思います。発表では、あまり準備ができないまま本番を迎えてしまいました。発表する前は準備をして、本番では身振り手振りを使って分かりやすく発表しようと思います。この1年は私の中でとても成長できたと思います。この1年間で学んだことを将来に生かしていき、看護師になるために成長していきたいと思います。

1年間でいろいろな大学に行ったり、講師の先生が来てくださって様々な職業の話を聞かせていただいたり、体験したり、とても充実した1年でした。特に印象に残っている校外学習は園田学園大学です。普段、あまり小さい子と関わる機会がないため、とても貴重な体験になり、学ぶことが多かったです。保育士の方の動きを見て小さい子にとっての良い行動などが学ぶことができ、とても嬉しかったです。

総合ヒューマン類型の特別講座で、自分が将来就きたい保育の分野はもちろん、他の医療や介護の分野の知識をたくさん学び、実習で身につけることができました。一年前までは興味がなかった職業も講義と実習のおかげで、もっと知りたいと思うようになりました。特に印象に残っているのは、甲子園短期大学での介護体験と高齢者疑似体験です。実際に体験して、初めて高齢者の体の辛さや介護の大変さを知りました。そのことを忘れないようにしたいです。

私がヒューマン特別講座で特に印象に残っているのは、ペアになって車椅子の人の補助の仕方や高齢者の視点を体験できたことです。車椅子の人の補助では、怪我をしないように立ち上がらせるのが難しかったです。高齢者の視点を体験する講義では、特別なゴーグルをつけて周りがぼんやりとしか見えませんでした。この2つの大切なことをヒューマン類型で学ぶことができました。大学の施設見学では、森ノ宮医療大学が印象に残っています。キャンパスが広くて、見たこともない機械が揃っていたからです。講師の方の進路アドバイスも役立ちました。

最も印象に残っていることは、関西学院短期大学の施設見学および体験学習です。敷地内に幼稚園があり、おもちゃや絵本などの資料が豊富だったり、教育について学ぶための設備がとてもしっかりしていました。また、ピアノの授業や子どもと関われる実習など、今の自分が求めていることを学ぶことができるという点にも魅力を感じました。反省点は、自分の目指す大学を決めきれなかったことです。そのため、2年生ではヒューマン類型の学びも参考に大学を選んでいきたいと思います。

私はこの一年間で、どの職業も今の自分に繋がっていることを実感しました。私は子どもに関わる仕事を目指したいと考えて総合ヒューマン類型に入りました。そのため、最初は子どもと関わりのありそうな職業となさそうな職業で意欲の違いが無意識に出てしまっていたと思いますが、講義を受けていくと、どの職業も子どもと関りがあり、子どものその後を支えてくれるのだと感じるようになりました。この考えは確実にこれからの自分を成長させてくれると思います。二年生では更なる成長を目指して取り組んでいきたいです。

私は人として少し成長できたと思います。その理由は、メモの取り方、話の聞き方が変わったことです。私は教育を学びたいと思いヒューマン類型に編入しました。教育が主となる講義は多くありませんでしたが、講義を聞いて大事なところでメモをとる習慣をつけるようにしたり、日々の生活で生かすことができるように講義を無駄にしないようにしました。この一年で、物の考え方も変わったと思います。まずは挑戦してみようと思うようになりました。「たとえ失敗してもそこから学べることがある。」私は人として成長し、将来の幅が広がったと思いました。

なりたい職業以外の分野についても学ぶことで、将来の選択肢を広げることができました。職業についての知識を学ぶだけでなく、人前に立って発表することの大変さや、毎回レポートで自分の気持ちを言葉にして書く難しさもありました。また、様々な大学へ見学に行くと実際に足を運ばないと分からないことも知ることができました。模擬授業や体験学習などで実際に高齢者や体が麻痺している人の立場に立って考え、その考えを周りの人やクラスの人と共有することの良さも知ることができました。

一年間、ヒューマン特別講座を受けて多くの職業を知ることができました。私は看護に興味がありますが他の分野で学べたこともたくさんありました。様々な視点から物事を捉える大切さや相手の立場に立って考えることの大切さを改めて感じることができました。管理栄養士や鍼灸師、柔道整復師など詳しく知らない職業についても知ることができ、将来の選択肢が広がりました。

ヒューマン類型に変更してから、自分の進路や学びについて深く考える機会が増えました。人と関わることの大切さや相手の気持ちを理解する力が必要だと学んだことが印象に残っています。文章を書くときに、口語になっていたり誤字があったりなど、自分が思っているよりも正しく書くことができていなかったことが反省点です。初めての校外学習で、国際的な視野を持ち、寄り添い、共に解決できるように行動する大切さを学びました。自分の目指している分野以外でも、人と関わるということにおいて大切にすべきことは同じで、どれだけその人に向き合って思いやることができるかを考えることも大切だと感じました。

私はヒューマン特別講座を通して、将来への幅を広げることができ、「学び」だけでなく、将来への考え方や気持ちの変化もありました。特に私は、園田学園大学での実習や、伊丹子育て支援センターでの体験実習が印象に残っています。私は将来、乳児院看護師になるという夢があり、看護の知識とともに保育の知識や技術も必要です。そのため、園田学園大学での看護についての講義や子どもとの関わり方を実際に体験でき、とても貴重な時間を過ごせたと感じました。また、様々な分野の職業について学ぶことができ、それぞれの職業のやりがいや大変さを知り、大学の充実した設備を体験して、将来の夢への気持ちが強くなりました。自分にとって、とても意味のある一年となりました。

≪来年度に向けての意気込み≫

今までよりも、もっと広い視野で将来の夢を考えて、自分が本当に就きたい職を見つけられるように頑張ります。そのためには、講義で学んで得た知識や実習で身につけたこと、その場で感じたことを一つ一つ忘れずに大切にしながら取り組んでいきたいです。

私はヒューマンで学んだことを日常生活でも活かせるようになりたいです。そのためには講義を受けて終わるのではなく、内容を調べることも心掛けます。レポートを見直してみると誤字脱字もあるので減らしていきたいです。分かりやすい文章を書くことを忘れず、講義には真面目に取り組みます。

私が頑張っていきたいことは、発表をもっと堂々とすることです。今年度の発表では、緊張して内容がとびかけたり、早口で話してしまうことがあったので、練習を行ったり、経験を重ねていきたいと思います。そして、その経験を面接に応用できるようにしていきたいです。

来年度は、自分が将来なりたい職との繋がりを意識しながら学びたいと考えています。人と関わる仕事には何かしらの共通点があると考えているため、その共通点を常に意識して学びを得ていきたいです。

来年度は、進路実現のため、勉学を頑張りたいと思います。そして看護師は協調性も大事なので修学旅行や学校行事を頑張りたいです。

私は今年、先生の話を聞いたり、メモを取ったりすることに集中していた。しかしレポートのできはあまり良くなかった。来年度はレポートに特に力を入れ、相手に自分の考えていることが伝えられるようになるためにレポートに力を入れ、表現力を身につけたいと思った。